



光 和

2月号
練馬区立光和小学校
令和7年1月31日

光和小
携帯サイト



備えあれば憂いなし

校長 矢島 直行

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」と言われますが、早いもので年が明けてから1か月が過ぎました。令和6年度も子供たちの登校日数は残すところ、修了式、卒業式まで30日余りです。一日一日を大切に充実した学校生活を送ることができるようにしたいです。

昨年1月1日、石川県能登半島を中心に地震が発生し大きな被害がありました。今から14年前の3月11日午後2時46分に宮城県沖を震源に大きな地震が起こりました。東日本大震災です。被害を大きくしたのは津波でした。以前、学校だよりに「釜石の奇跡」について書きました。多くの方が被害にあった中、釜石市の小中学生のほとんどが助かりました。それは日頃から心がけ実践している「逃げる」ことの成果です。釜石市のある中学校では、地震が起きると生徒たちは自主的に校庭を駆け抜け、「津波が来るぞ」と叫びながら避難所まで移動しました。日頃から一緒に避難訓練をしていた隣接する小学校の小学生たちも後に続きました。ところが、避難場所の裏手は崖が崩れそうになっていたため、さらに高台へ避難しました。間もなく、指定されていた避難場所も波にさらわれました。間一髪で高台にたどり着いて事なきを得ました。

地震はいつ起こるか分かりません。いざ起こったときに慌てずに自分の身を守ることができるようにするためには、日頃からの訓練が必要となります。学校では月に1回、地震や火災を想定した避難訓練を実施しています。これは様々な状況を想定して災害時に自分の安全を第一に考えて行動できるようにするためです。学校では令和7年度から子供たちの委員会活動の中に環境安全委員会を設立する予定です。校内の環境整備と安全対策に子供たちと取り組むとともに、備蓄倉庫や防災訓練等について校内だけではなく保護者や地域の方にも情報を発信し連携していきたいと考えています。

30年前の阪神淡路大震災では多くの住民が身近な公共施設に避難したという教訓を踏まえて、練馬区には区立小中学校を避難拠点として運営するために避難拠点運営連絡会があります。震度5弱以上の地震が起きた場合、学校に避難拠点が立ち上がります。自宅にいられない方や帰宅困難者が学校に避難します。避難拠点運営連絡会は毎月開催され、定期的に訓練をしています。学校も避難拠点が開設されたときを想定した訓練やトイレが使用できなくなったときの訓練を行っています。いざというときは避難拠点運営連絡会の方々だけではなく、保護者の方をはじめ、地域の皆様のご協力が必要です。

2月15日(土)9時30分から12時30分、学校で避難拠点運営連絡会により、避難拠点が開設されたことを想定した防災訓練を行います。校庭では避難拠点の説明、備蓄倉庫前では仮設トイレと給水スタンドパイプ、ピロティでは発電機、投光機、バーナーなどの設置訓練を行います。はしご車や煙ハウス、消火器使用訓練、起震車体験も予定しています。5年生の子供たちは2月8日(土)学校公開で防災教育に取り組みます。授業の様子を保護者の皆様もご参観いただき、防災訓練に子供たちや保護者の皆様も参加していただけたらと思います。もしものことを想定してあらかじめ準備をし、いざというとき慌てずに行動することができるようにしていかなければなりません。ご家庭でも様々な状況を考えて災害時の避難について話し合っていたらと思います。